

乙 貞

第123号 通巻22巻 第2号

2002年7月15日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

Tel・Fax 077-585-4397

〒 524-0212

守山市服部町2250番地

大型連休も終わるや否や、発掘調査は次々と始まり、本格的な調査シーズンに入りました。今月号は6月末までに終了した調査と、現在行っています発掘調査について報告します。

☆ 調査終了

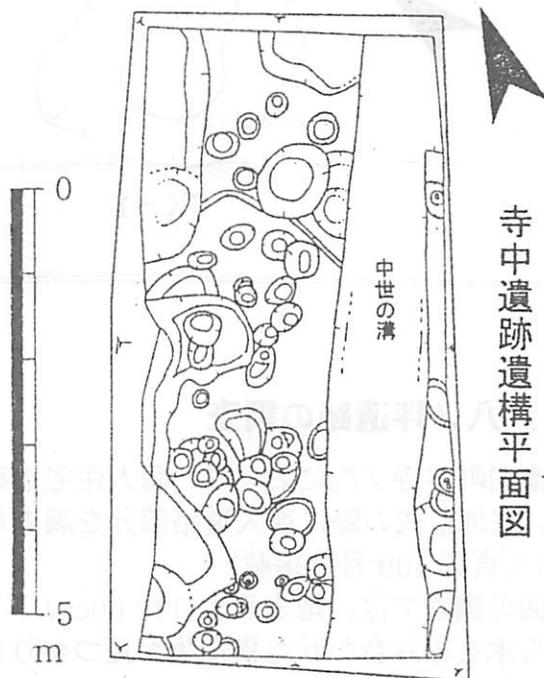
1. 寺中遺跡の調査

4月に個人住宅建築に先立ち、調査を実施しました。その結果、弥生時代中期前半のピットや土坑、中世の溝を検出しました。特に弥生時代の遺構の密度はこれまでの調査の中でも群を抜いています。

出土遺物は多量の土器のほか、^{へきぎよく}碧玉やサヌ

カイトの^{はくへん}剥片が若干みられ、集落内での玉つくりや石器製作をわずかながら示唆しています。

中世の溝は、出土した信楽焼^{すりばち}播鉢から14世紀代の時期とみられ、近接する矢島御所や矢島城の関連遺構か、もしくはそれに先行する中世集落（城館）が存在した可能性も考えられます。（小島）

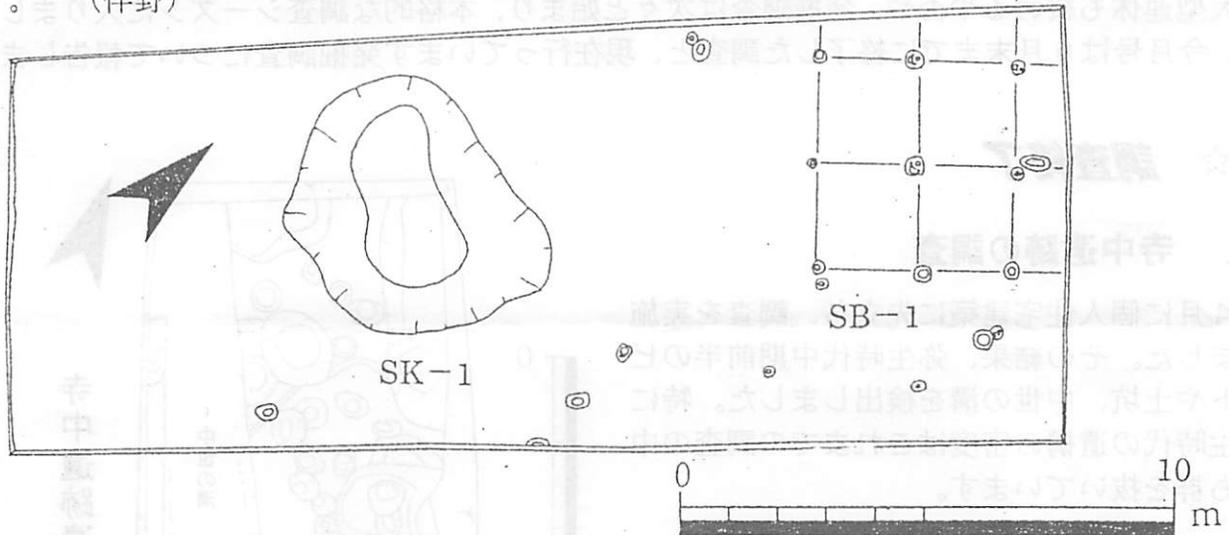


目次	
調査終了	
1. 寺中遺跡	1 p
2. 二町鏡遺跡	2 p
3. 八ノ坪遺跡	2 p
4. 堂ノ北原遺跡	3 p
調査中	
5. 石田三宅遺跡	3 p
6. 下長遺跡	3 p
7. 古高・経田遺跡	3 p
8. 金森東遺跡	6 p



2. 二町鏡遺跡（第17次）の調査

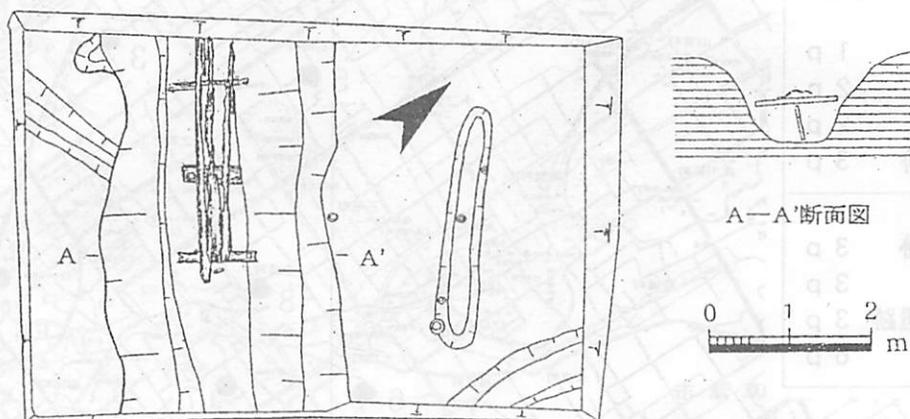
物部小学校の東隅に隣接する水田地で、宅地造成工事に伴う発掘調査を実施しました。約200mを対象にした調査からは、2間×3間以上の掘立柱建物1棟（SB-1）と浅い落ち込み（SK-1）を検出しました。掘立柱建物の柱穴からは、土師器片が出土していて、平安時代後期の建物と思われます。SK-1は遺物が出土しなかったため、時期や性格は不明です。（伴野）



3. 八ノ坪遺跡の調査

播磨田町字寺ノ内において、個人住宅建築に先立つ調査を実施しました。調査地の周囲では、宅地造成の際に進入道路部分を調査しており、室町時代の集落跡が見つかっています。（乙貞第109号に掲載）

今回の調査では、地表面より約60cm下で、幅約3m、深さ約1.1mの溝を検出し、溝底から木を組み合わせた構造物が見つかりました。この構造物は、幅10cm～25cm前後の角材3本（転用材）を横位置に寝かし、その上に3枚の薄い板材（長さ約3m）を敷き並べていました。周囲に竹杭が数箇所打ち込まれており、構造物が溝の中で動かないよう固定されていました。溝底には砂や粘土が堆積し、水が流れていたと推定されるため、この構造物は、水路の水を目的の場所に導くために設けられた「木樋」の可能性が^{もくひ}あります。築造時期は出土した土器から室町時代（14世紀代）のものと考えられます。（川畑）

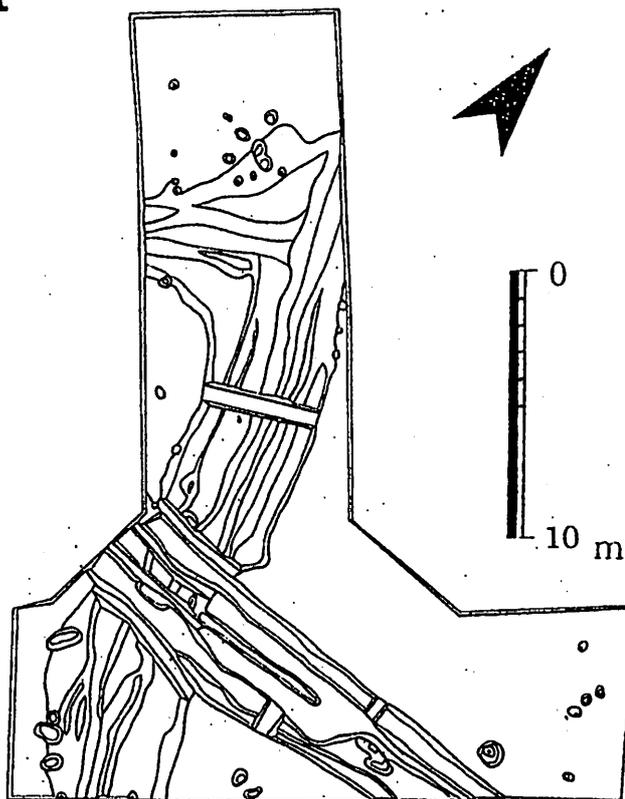


4. 堂ノ北原遺跡（第5次）の調査

5月中頃より、吉身小学校の南側で、宅地造成に先立つ調査を実施しました。この隣地では、昨年7月に調査を実施しており、古墳時代の玉つくりに関する竪穴住居、平安時代中頃の掘立柱建物跡が見つかっています。（乙貞第118号）

今回は道路部分のうち、約300㎡を調査大勝として実施しました。遺構は東西方向および南北方向に走る溝や、ピットを検出しました。

東西の溝は2条が平行に走り、南北の溝を切っていました。深さは10cm～30cm程度で、灰色砂質土で埋まっていた。遺物は少なく、土師器の皿や信楽焼の播鉢が出土しています。南北の溝は、北寄り西側に延びていくようです。大きさは幅が約4.5m、深さ50cmで、埋土から土師器や須恵器が出土したことから、古墳時代後期頃と思われます。（畑本）



堂ノ北原遺跡遺構平面図

☆ 調査中

5. 石田三宅遺跡の調査

5月から石田町地先において、配水池および管理棟の建設工事に先立ち発掘調査を進めています。これまで古墳時代の溝と平安時代の溝、旧河道などがみつかっています。平成10年度に南側隣接地において、道路建設に伴う調査でもほぼ同時期とみられる溝が見つかり、今回検出して溝はその延長部にあたるものと考えられます。古墳時代の溝は、東西方向に真っ直ぐ延びるもので、一部に小規模ながら矢板が打ち込まれた堰が確認されました。おそらく水路跡ではないかと考えられます。（小島）

6. 下長遺跡（第19次）の調査

6月中旬から遺跡の北端にあたる場所で、宅地造成に先立つ調査を開始しました。約400㎡の調査範囲からは、掘立柱建物跡、土坑などを検出しました。掘立柱建物は4棟前後あり、うち1棟には区画溝が伴っています。大きさは4間×4間、2間×2間などが考えられます。柱穴から土師器の皿、黒色土器碗、白磁碗などが出土しており、およそ12世紀末から13世紀代の時期と思われます。（畑本）

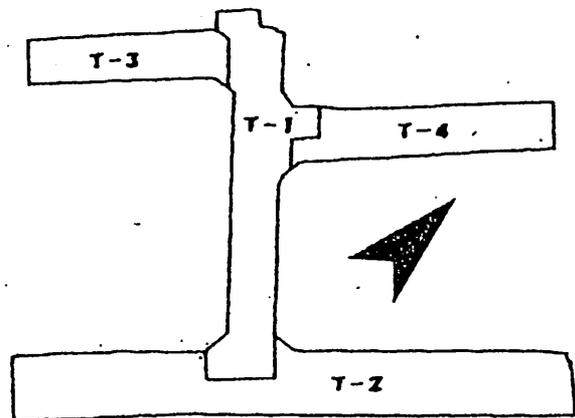
7. 古高・経田遺跡の調査

3年目となる古高・経田遺跡の調査は、5月より開始しました。昨年度から引き続いて

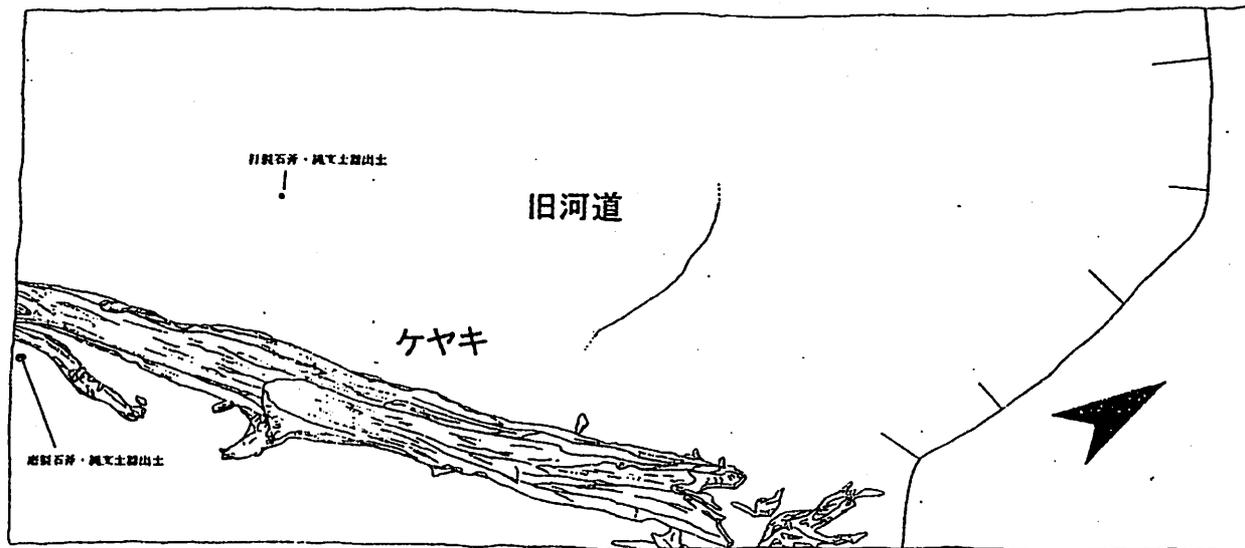
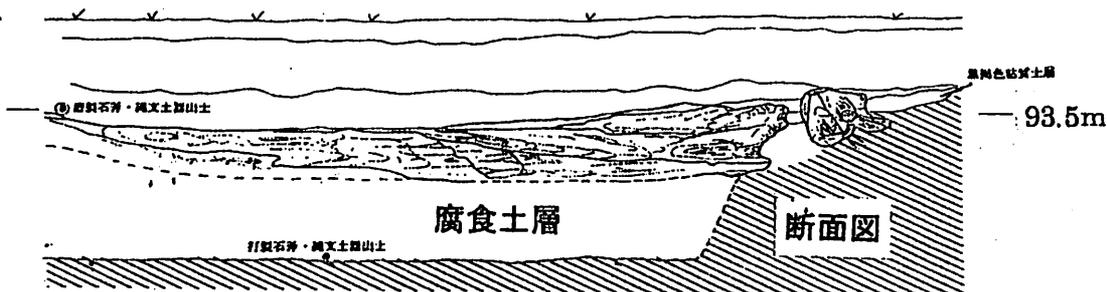
第二工区のT-5、T-6の調査を進めており、このうち、T-5の西端から深さ約3mを測る縄文時代の旧河道を検出しました。旧河道には腐食土が何層にも堆積していて、土器のほかケヤキの大木、ヌルデ、カシ、イヌガヤなどの木や葉、たくさんのトチ、クルミ、クリなどの実が見つかりました。また、溝底の礫層からは、後期の土器や石器、サヌカイト片が出土しています。ケヤキは直径が最大で1.1m、検出した長さは9m以上もあり加工痕が見当たらないことから、何らかの要因で自然に旧河道に倒れ、埋まったものと思われます。木の根っこは県内でも例がありますが、木の幹が出土したことは珍しいことです。

旧河道は、上層の黒褐色土に弥生時代の土器が出土していることから、縄文時代後半から弥生時代までに、ゆっくりと堆積していたと考えられます。

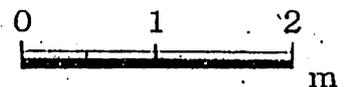
そのほか、T-6の上層では、現状の地割に沿った数条の溝とピットが見つかりました。遺物は土師器が少量出土しているのですが、古墳時代以降の耕作溝のよう



古高・経田遺跡調査区位置図

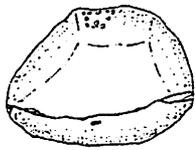
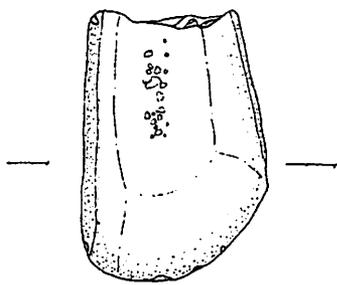


第二工区 T-5 旧河道ケヤキ出土状況平面図



なものであると思います。現在はさらに下層の調査を行っているところですが、縄文の遺構は見つかっていません。

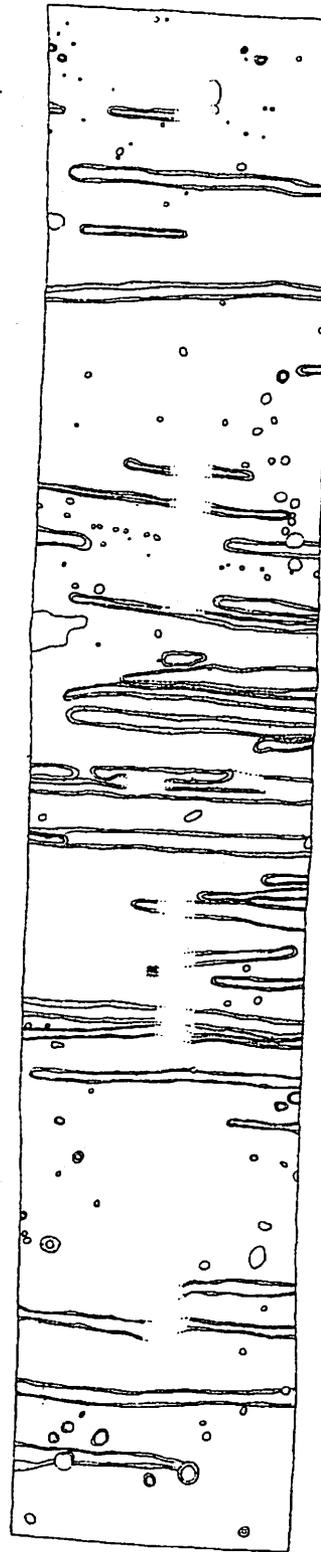
これから夏にかけて第二工区の残り、東部分に入っていきます (森山)



磨製石斧実測図 (旧河道出土)



打製石斧実測図 (旧河道出土)



第二工区 T-6

上層遺構平面図



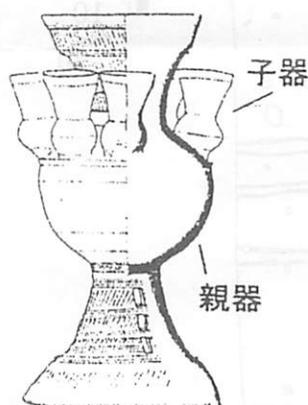
8. 金森東遺跡（第31次）の調査

3月調査を終了した地点の隣を調査しています。そのとき見つけた旧河道の反対側の川岸が検出され、川が途中で二股に分かれていたことがわかりました。川の肩の際には溝が掘られており、古墳時代の土器が出土しています。前回調査区の川の肩の際で見つけた井戸からは、弥生時代後期の土器が出土しており、川は弥生時代後期には井戸の高さまで埋まり、古墳時代には今回調査区の溝の高さまで埋まって、長い時間をかけて徐々に埋没していったことが考えられます。

旧河道以外にも弥生時代から鎌倉時代にかけての溝やピット、井戸が多数見つかっています。なかでも古墳時代後期の井戸の底からは、^{そしょうつきすえき}装飾付須恵器の子器である小壺が見つかりました。装飾付須恵器は壺や高杯、器台など（^{おやき}親器）のまわりに小さな壺や、粘土でつくった人物や鳥、鹿など（子器）を3～4個貼り付けたもので、大きいもので高さ40cmほどもあります。

今回出土した小壺は、高さ5.8cm、幅4.2cmと可愛らしいもので、小壺の底の外面には指で押さえた痕が、内面には棒状の工具のようなもので押さえた痕が^{けんちよ}顕著に残っており、親器と接合する際についた痕と考えられます。

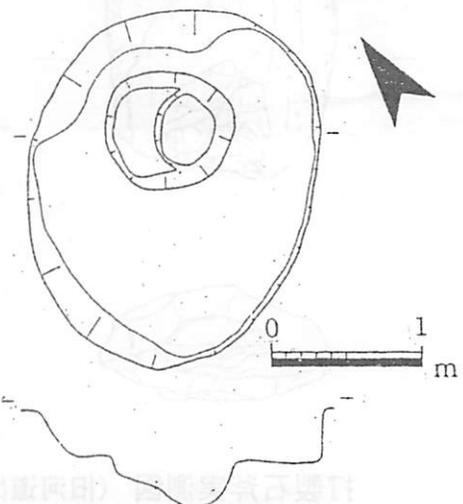
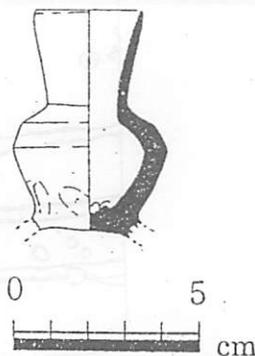
日本で出土した装飾付須恵器の多くが古墳から出土しており、古墳の^{そうそうざれい}葬送儀礼に用いられたと考えられています。滋賀県でも大津市大通寺3号墳や^{あのう}穴太古墳群から出土しています。守山市内からは吉身北遺跡の竪穴住居から出土しており、珍しい例です。金森東遺跡でも小壺だけが、親器から故意に割られたかどうかわかりませんが、古墳ではなく、井戸の底から出土している例は少なく、井戸で何らかの^{まいし}祭祀が行われたものと考えられます。3月から継続して調査を行っている第Ⅲ工区も7月には終了の予定です。次回の乙貞では、第Ⅲ工区のまとめをしたいと思います。（大岡）



京都府 牧正一古墳出土

1/8 図

金森東遺跡出土小壺



小壺出土遺構平面図・断面図

【後記】 6月といえば、いつも暑い暑いと言う時期と思っていましたが、今年の梅雨寒はより肌寒くて、現場でも長袖を欠くことができませんでした。おかげさまで風邪をひいてしまいましたが、中世の良好な建物にあたり、元気良く調査に励んでいます。 Ha